

令和4年度 札幌青葉鍼灸柔整専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

開催日時：令和4年5月18日（水）

開催場所：柔整棟2階教室

評議委員長：水上 弘祥（北海道鍼灸柔整マッサージ師会 会長）

評議委員：関 克彦（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生：青葉会（同窓会）会長）

吉田 真人（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生）

渡辺 潤（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生）

加藤 善弘（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生）

自校教員：岸野 庸平（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 副校長）

長谷川 源（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 教務部長）

溝口 照悟（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 鍼灸学科長）

八重樫 正（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 柔道整復学科長）

須藤 むつ子（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 日本語学科長）

山口 澄江（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 鍼灸学科教員）＊書記役

永井 愛鈴紗（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 柔道整復学科教員）＊書記役

武藤 耕太（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 柔道整復学科教員）＊書記役

上林 彰仁（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 日本語学科教員）＊書記役

◆司会進行：副校長

<基準1> 教育理念・目的・育成人材像について

水上：日本語学科の設立の目的は？

岸野：日本の介護人材が不足していると言われている状況であることから、海外の留学生を受け入れていくことで、介護人材の育成、補充していくことを目指している。

現在、札幌青葉のグループ校である大阪や福島の専門学校では、企業が留学生に対して学費などの資金援助を行い、日本語学校を卒業した後に、介護の資格を取得することができる専門学校に入学している。介護の資格を取得することができる専門学校の学費は国の補助金制度を利用することで、留学生は学費の負担が軽減されることで入学することができ、介護福祉士の資格を取得した後に、資金援助をしてくれた企業に就職するという取り組みを行っている。

札幌青葉もこれと同様のシステムの実現を考えている。

水上：労働ビザは大丈夫か？

岸野：介護系の職業は労働ビザ取得が可能である。鍼灸・柔整は、開業権があるせいか分からないが、労働ビザが取れないので、鍼灸・柔整に興味を持った外国人が諦めてしまう例があった。

吉田：日本語学科はいつから設置された？

岸野：令和3年10月に設置。

<基準2> 学校運営について

水上：コロナ対策はどうしているか？

岸野：手指消毒や、教室の換気を徹底している。さらに、ロビーの椅子を減らすことで密にならないように対策している。感染者が発生した場合は、Zoomによる遠隔授業などの個別対応を行っている。

水上：公衆衛生の授業で感染について勉強しているか？

岸野：実施している。

<基準3> 教育活動について

水上：各学科の入学と退学の状況を教えてほしい。

岸野：退学者がかなり多い状況にある。

退学者を出さないように、教員が随時面談を行いフォローをしている。

退学する学生の多くは、成績が悪いことが大きな原因となっていることから、成績下位者には補習を実施している。また、コロナの影響で親の収入が下がり、金銭的な問題で退学していく学生もいる。

入学者は現在厳しい状況にあるが、オープンキャンパスの充実化や高校への出前授業を実施し、札幌青葉の知名度を上げていくようにアピールしている。

八重樫：入学前からの学力にも多少問題がある。日本語の理解も不足しているのではないかとと思われることもあり、その教育も必要になってきているのではないかと考えられる。昨年までは、3年生を中心に個人指導である寺子屋や補習を実施していたが、今年度は1年生から解剖学や生理学などの基礎医学を中心に補習を実施して対策している。

学生にはモチベーションを持ってもらい、それを維持していくことが課題である。

教員として、各資格の魅力を十分に伝えていかなければいけないと考えている。モチベーションがないと勉強意欲や資格を取りたいという意識が薄れていく。近年は特にそういう学生が多くなっている。開業などの目標を持たずに何となく入学した学生が、自分が思っていたことと違って、勉強が大変だと感じ、資格に対する意識が低い学生が増えてきているため、今後対応していきたい。

吉田 : 夜間部があったときは学生に社会人がいたが、昼間部のみになってからはどうなのか？

八重樫 : 柔道整復学科昼間 1 部に入学してくる学生のほとんどが高校新卒で、社会人の入学者は少ない。

溝口 : 鍼灸学科は昼間 1 部 (午前) と昼間 2 部 (午後) があり、昼間 1 部は高校新卒が中心となっており、昼間 2 部は柔道整復学科を卒業してから再入学する学生や、柔整と鍼灸を併用している学生が多く、昼間 1 部と比べて人数は少ない状況にある。

渡辺 : 鍼灸・柔整の両学科で規定以上の単位数の授業を実施しているが、せっかく規定以上の授業を行うのであれば、臨床に沿った授業など、学生が興味を持つような内容の授業を行ってはどうか。

もしくは、規定通りの授業数にして、残りの時間は補習等を充実させた方が、合格率や学生のモチベーションの維持を考えると良いのではないか。

実際の鍼灸や柔整の職業を知ってもらう必要があると思う。過去に鍼灸院や接骨院を受診したことがある人は、ある程度の職業イメージはあるが、なんとなく入学してきた学生も多いと思う。職業の内容がよくわからないのに、勉強が難しくとなると、当然成績が下がり、モチベーションも下がるので、退学の方に行く可能性が高くなる。実際の臨床現場を見て知ってもらい、興味を沸かせることが必要だと思う。

理学療法士・作業療法士・看護師は臨床実習が必須だが、鍼灸・柔整も 1 年生から実習体験を行うことで職業を理解できるので、とても大事なことだと思う。実習の取り組みを単位に盛り込んだらいいと思う。

長谷川 : 外部実習について、柔道整復学科では単位として取り入れていくために検討・対策している。

評価方法など細かいところを含めて進めている。

実習の受け入れ先に限度があり、その問題も検討している。実際の仕事を見せることで患者さんとの接し方を学ぶ機会を作れるよう検討している。

水上 : 教員の資質向上のための対策は考えているのか？

八重樫 : 教員のスキルアップを目的に研修を検討している。

道内の専門学校教員を集めての教員研修会や、溝口先生が企画している学術研修会などを行うために動いている。これまでコロナの影響で中止になっていたが、今年度は教員の意識を高めていくため話を進めている。

溝口 : 教員の技術・知識の向上のための案として、教員が時間を取って外部講師など他の先生の授業を聴講し、知識や講義スタイルなど良いものを取り入れていくことや、治療院での実習にも参加して技術面も勉強していけるように検討している。

須藤 : コロナの影響で、留学生の入国が厳しい状況である。教員が教務の仕事に加え、学生募集なども行っている状態なので、教務の仕事に集中・勉強・向上できるよう整備をしていく事が必要と考えている。

<基準4> 学習成果について

吉田 : 令和3年度の卒業生の就職率はどうなっているか？

八重樫 : 柔道整復学科では、接骨院や介護事業など就職の需要がかなり多く、就職率は100%となった。そのうち数名は道外に就職している。

溝口 : 鍼灸学科の就職率は84%となっているが、夜間部は年齢層が高いため現職にそのまま就いた者も多い。  
本人の希望で就職をしなかった卒業生が数名いたが、新卒の就職希望者は100%である。

吉田 : コロナ禍でも募集があるのはとても良いことだと思う。

水上 : 就職率が良いので、学生募集に合格率より就職率をアピールしたほうが良いのでは？  
国家試験に合格しても就職できなければ意味がないので、就職率が良いことは親も安心するのではないかと思う。

加藤 : 整形外科に就職する卒業生はいるのか？

八重樫 : 整形外科の求人が非常に少ない。病院の求人はスタッフの退職に伴い急遽募集することが多く、卒業のタイミングで募集が無いことが多い。

渡辺 : 学校側から就職先への営業などの働きかけはしているか？ 柔道整復師・鍼灸師が機能訓練の算定要因になっていることを知らない介護事業所も多いのではないかと思う。そういった事業所に営業活動などは行っているのか？

岸野 : 現在営業は実施していない。企業説明会の開催を準備している。

補足 : 本校卒業生が就職している介護事業者に対しては、数年前（コロナ前）から働きかけはしており、求人ももらっているが、まだ営業数が足りない状況である（岩倉）。

八重樫 : 広報との連携を強化・構築し、広報活動で卒業生の接骨院に学校パンフレットを置いてもらうと同時に、就職の斡旋もお願いしてもらうように考えている。

長谷川 : 整形外科・介護事業所に挨拶状を出してコネクションの構築を考えている。

札幌青葉は整形外科の就職が少ない状況の中で、オープンキャンパスの来訪者が病院に就職したいという希望があることを聞いたので、これから話を進めていく。

<基準5> 学生支援について

八重樫：求人票を2階職員室入り口廊下に設置していたが、現在は各企業の情報漏洩の問題で撤去している。求人票は職員室にファイリングしてあり、学生の希望により観覧できるようにしている。

水上：各学科の退学状況の具体的な数字はどうなっているか？

八重樫：令和3年度の柔道整復学科の退学率は13.3%、鍼灸学科では12.5%となっており、全体で12.9%の退学率となっている。この退学率はかなり多い状況にある。

退学率を下げる対策として、面談の充実化が必要と考えており、本人が退学の意志を決めてから面談しても遅いので、退学の意志を決める前に学業やプライベート問わず相談に乗れる環境を作るために学科内で検討している。

溝口：退学率を10%以内に抑えられるよう対策を検討している。

須藤：「令和3年度自己評価報告書」文言の訂正願い。

<学生相談>内、「2) 留学生に対する相談体制を整備しているか」の「現状・具体的な取組等」3行目

【訂正前】出入国在留管理局から「適正校」と認められている。

【訂正後】法務省出入国在留管理局から「告示校」と認められている。

補足として出入国在留管理局が認める「適正校」とは、開講後2年程度の学生受け入れ、学生管理の様子を当該局がみて、問題なしと判断された結果、認定されるものである。

学生支援としては、留学生が日本で暮らす上で重要となる、文化の違いやマナーに関する講習は、学生の入国前からオンラインでも指導している。

長谷川：現在、面談を実施する場所が少ない状況にある。鍼灸棟1階の保健室も利用するなど、クラス担任が一斉に面談できるように環境を整えている。

渡辺：以前は欠席可能数が各授業のコマ数に対して1/2だったのが、1/3になっている、コマ数が多い解剖学・生理学・柔道整復理論の主要授業が1/3も欠席可能ということに非常に疑問を感じる。夜間部があった時は、仕事の都合により遅刻が多くなってしまいう現状もあったが、現在夜間部がない状況で、昼間部の学生は1/3も休んで良いという考え方になってしまう。休む回数が多いと癖になり、勉強が遅れてついていけなくなるので結果的に意欲低下につながる要因ではないかと思う。

今後学則の変更も考えてはどうか。

長谷川：学則規定の変更は可能だと思う。

岸野 : 学則規定の変更は可能なので検討する。学生が勉強できる環境を作るために考えていきたい。

#### ○保護者等との連携について

八重樫 : 保護者との連携について、これまでは全て電話対応を行ってきたが、仕事の都合で連絡が取れない場合も多かったため、今年度からメール対応を構築した。メール対応を構築したことにより迅速な連絡が可能となった。

#### <基準6> 教育環境について

吉田 : コンサドーレのトレーナー担当は決まっているのか。トレーナー活動をするためにコンサドーレと契約したのに、打ち切ってしまった。コロナの影響で難しい状況になったのは理解できるが、やはりインターシップ等は続けてほしいと思っている。しかし、これまでトレーナー活動に積極的に動いている教員がいなかったのが、今後どう考えているのか。

八重樫 : 今後は JAL 国際マラソンに加えて、中学・高校のスポーツ大会のトレーナー活動を検討している。現在、教員が動き始めており、この活動に学生も引率できるように構築している。

吉田 : リラコンサドーレのトレーナー活動は行っているのか？

岸野 : 治療院に来た選手を治療している。現場に行く活動はしていない。

吉田 : 3月までは契約していたのに非常にもったいないと思う。せっかくスポンサーになっているのでトレーナー活動は学生にも教員にも見てほしいと思っている。

補足 : コンサドーレ札幌のトレーナー派遣について、令和4年度の契約からは、トレーナー派遣を取りやめ、バドミントンチームおよびリラコンサの選手を優先的に、本校附属治療院に紹介して治療を実施する(本校学生の見学も可能)ということになった。リラコンサドーレのトレーナー派遣については、1年以上実施されていなく、バドミントンチームについては、チーム意向があり、コンサドーレ側から提案があったものです(岩倉)。

#### <基準7> 学生募集と受け入れについて

渡辺 : 学生募集について、外回りの訪問を担当している人はいるのか？

岸野 : 広報で外回りはしているが、教員の帯同は高校への出前授業のみである。

グループ校の宝塚医療大学でも取り入れている学生募集コンサルタントの指導を受けながら、オープンキャンパスのやり方や学生スタッフにマナーや接遇を指導してくれる予定である。

渡辺 : 岩見沢にある駒沢看護学校が今年度募集終了となる。  
通常は 70 人定員満員で今年は 40 人となり、募集終了の流れとなった。  
看護学校ですら募集を終了してしまう時代なので、札幌青葉は、営業や広報がしっかり機能していないとの話を聞いたので広報活動は重要であると考えている。

岸野 : 広報は鍼灸師・柔道整復師ではないので詳細な説明をする活動には限界があることから、教員が出席する広報委員会を実施することで、効果的な広報活動が出来るよう進めている。

渡辺 : 広報に卒業生（鍼灸師・柔道整復師）を入職させるのはどうか？  
宣伝するためにはその商品内容を知らなければ営業できないので、今後考えてみてはどうか？

関 : 退学者が多い件にも結び付くと思うが入学判定の基準はどうか？

長谷川:2018 年以降高校生が減った事、高校の先生は大学推しで専門学校は好まれない傾向に有るため、成績下位者が入ってくる状態である。  
入学時からのサポートや本人のモチベーションをあげていく方法を取る必要が出てきている。

#### <基準 8> 財務について

吉田 : 日本語学校の定員は？

須藤 : 参考情報として、日本語学科令和 3 年度 10 月入学生（1.5 年コース）、および令和 4 年度 4 月入学生（2 年コース）の募集・受入れ状況を報告。コロナ禍の入国制限により、まだ未入国の学生がいるが、すでに下記学生のうち 11 名が入国済み。

令和 3 年度 10 月生 : 1 名（モンゴル）入学

令和 4 年度 4 月生 : 16 名（ネパール 14 名、モンゴル 2 名）入学

令和 4 年度 10 月生の募集状況（確保状況）は、次のとおり。以下の学生について、札幌出入国在留管理局へ在留資格認定証明書交付申請を行う。

令和 4 年度 10 月生 : 20 名（全員ネパール）

ネパール人が多く、学生の国構成に偏りがあることが、目下の問題である。

#### <基準 9> 法令等の遵守について

吉田 : ホームページでの情報公開はしているのか？

岸野 : 速やかな情報公開を目指したいと考えている。

補足：情報公開はホームページで実施している。毎年更新している（岩倉）。

#### <基準10> 社会貢献・地域貢献について

関：付属鍼灸接骨院について

八重樫：付属接骨院の現状は、予定の患者数に届かない状態となっている。

教員のシフト制を導入し、常に各教員が施術を担当できるような体制を整えるべく動いている。

山口：臨床実習は今年から夜間部がなくなり、昼間1部は9時～10時40分から、昼間2部は13時から行っている。コロナで患者さんの人数を制限、休院をしていた時期もあり、患者さんが離れて行ってしまい、来院数は少ない。

外来患者の受け入れについては、平成30年度のカリキュラム変更で、実技・実習の授業が増えたことから、実技室・実習室が不足し、付属鍼灸治療院も授業で使用していることから、外来利用での活用が難しい状態である。

須藤：国際交流について

近隣住民との交流として、外部の国際交流支援団体が主催する高校生とのオンライン交流に、在籍留学生有志数名が参加予定である。また、札幌市内の日本語教員志望者をビジターとして授業に招く試みにも着手している。

また、学内での国際交流も求められている。今後日本では外国人の患者増加が予想されることから、日本人学生を外国人に慣れさせる目的で、一部の鍼灸科・柔整科教員より、本校留学生と日本人学生との交流機会設置の要望があった。

すでにある部活（ランニング部、柔道部）に参加したい留学生もいることから、日本語学科としてそこへの参加を支援することで、学内国際交流の足掛かりとしていきたい。

#### <ボランティア活動について>

意見なし